

11月22日に開催されたシンポジウム「次世代をはぐくむ、住まい・まちづくり」に参加された皆さんにアンケートへのご協力をお願いしました。記入いただきましたご感想やご質問の内容(講演者別と全体)と、講演者からのコメントを報告します。

(同内容のご意見・ご感想はまとめて掲載しています。)

事例報告2:永田宏和(NPO法人プラスアーツ理事長)

以下、アンケート回答より感想を掲載します。

○市の地域振興課及び防災課等とのタイアップ活動はどのようになされているのか。(市の危機管理室との連携)(50歳代)

○応用力を養う力を付けるための活動の必要性のなかで頑張っていることに感謝です。(60歳代)

○伝えたいことを、少し違う視点を含めてプログラムを考えていることに感心しました。「防災」非常に重いテーマだけに入りやすく記憶に残るような演出の重要性を考えさせられた。(40歳代)

○こんな教育の手法もあるんですね。将来の子供達のためにもっと国・府・市とそと、取組む必要だと思えます。(40歳代)

○防災の和、普段は忘れがちなことですが、ともに支え合う気持ちを子供たちに持ってもらうこと大事だと思えます。(50歳代)

○かえっここのシステムすごいです。水都のイベントも良かったのがよく理解できました。(40歳代)

○楽しみながら知恵を学ぶ、すばらしいです。(50歳代)

○防災意識を持つことは話では重要と書いていても、なかなか自分の立場で本気になれないものです。試みとしておもしろいと思いました。まったく知らなかったのです。(50歳代)

○かえっこ最高です!! いつもたのしみ! 子どもは学校で避難訓練していますが、親子間は実際訓練していない。地域交流の中に防災教育があればイザの時のいいと思えます。(40歳代)

○「+ars」って何の略ですか(40歳代)

○子供の頃から防災について学ぶことや実際に体験するのはいいことだと思います。災害についてもっと学べる場が増えたらいいのになあって思えます。(30歳代)

○防災活動を通して地域のコミュニケーションを図るということが新しいユニークな発想だなと感じました。(30歳代)

○手作りの催しながら多くの参加者を集める工夫・努力に大変感心しました。Face to face のコミュニケーションの大切さと強さがそのヒケツかもと思いました。(50歳代)

永田宏和よりコメント

短いプレゼンの時間でしたが、私たちの展開している活動のことを評価いただき、その意味を感じ取っていただいているようで本当によかったです。質問にありましたが、「+arts」の意味は、社会の様々なジャンルの課題に、アートや建築、デザインといった創造力を注入し、既成概念にとらわれないフレキシブルな発想で取り組むというスタンスをあらわしています。どんどん複雑になっていく社会のなかでまちづくりに取り組む際に今後重要なアプローチ手法になると思えますので、ぜひ今回ご紹介した手法を参考にいただければと思います。「+arts」は特定の専門家しかできない難しいアプローチ手法ではなく、これまでの私たちの活動でもその多くの担い手は地域の人たちや学生さんたちでした。皆さんの活動でもぜひ実践していただければと思います。大阪の町で私たちの展開している楽しく学ぶ防災訓練「イザ!カエルキャラバン!」が開催される際にはぜひ会場でお会いしましょう! よろしくお祈りします!